

生涯学習概論

自由

開講年次：3年次前期

科目区分：講義

単位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：今日、生涯学習の重要性が増し、様々な機会と方法で継続的に学習することが求められるようになった。人々の生涯学習は、従来の「生活拡充共生型」の社会教育にとどまらず、職業やまちづくりなどに必要な専門的能力の獲得を目指す「リカレント教育」（あるいは継続教育）を含むものとして展開しているが、後者を含む生涯学習活動を支援・促進する理論と実践の意義を理解する。とくに博物館学芸員を含む生涯学習・関連職員にはどんな専門性が必要なのかを理解することを重視する。生涯学習活動を支援・促進する理論と実践の意義を理解するため講義形式で授業をすすめる

■**到達目標**：①生涯学習の定義がわかる。
②生涯学習の具体的な動向を理解する。
③生涯学習に関わる職員に要請されている専門性の内容がわかる。

■**担当教員**：

木村 純

■**授業計画・内容**：

- 第1回 本講義のねらいと進め方
- 第2回 生涯学習の理念と歴史（1）
- 第3回 生涯学習の理念と歴史（2）
- 第4回 生涯学習推進の行政と体制
- 第5回 生涯学習の現代的課題と学習内容
- 第6回 成人教育学の動向と成人教育の方法
- 第7回 生涯学習の実践事例（1）都市部の実践事例
- 第8回 生涯学習の実践事例（2）農村部の実践事例
- 第9回 生涯学習施設と専門職員（1）博物館とその他の社会教育施設と専門職員
- 第10回 生涯学習施設と専門職員（2）学芸員の役割と専門性
- 第11回 社会教育施設と指定管理者制度
- 第12回 生涯学習・社会教育の計画化と住民参加
- 第13回 博物館・美術館ボランティアの意義とその学び
- 第14回 生涯学習の評価と活用
- 第15回 まとめ

■**教科書**：教科書は使わず、毎回詳細な資料を配布します。

■**参考文献**：講義の進行に合わせて適宜紹介します。

■**成績評価基準と方法**：出席30% 中間レポート20% 最終レポート50%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	①到達目標	②到達目標	③到達目標		
出席	○	○	○	毎回出欠を確認する	30%
中間レポート	○	○	○	講義の正しい理解に基づく感想が記述されていること	20%
最終レポート	◎	◎	◎	課題にたいして論理的で説得力ある記述が行われていること	50%

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：博物館学芸員資格取得に必要な科目

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：講義中の質問を歓迎します。積極的に質問をしたり意見を述べていただきたいと思います。